# HP Indigo デジタル印刷機が促進する既存事業の強化と 新たなアルバム市場の開拓







## 『品質の高さ』を求めて Indigo を導入

株式会社博進堂は、創業大正 10年(1921年)・設立昭和 25年(1950年)、従業員 167名のアルバムメーカーで、新潟や東北地方、関東地方など東日本を中心に約3,600校に対して学校アルバムを提供している。博進堂の学校アルバムは、印刷品質、特に創業当時から力を入れてきたモノクロ印刷品質と、デザイン・レイアウトを活かしたストーリー性の高さを特徴としている。

デザインやレイアウトの役割について、清水伸社長はこのように語る。「アルバムの良さの 70% は写真で決まりますが、アルバムを美しく見せるため、また 30 年、50 年経った時点で見た時に「思い出」を誘発するため、デザインやレイアウトが必要不可欠なのです。学校アルバム用にデザインテンプレートを作成・提案をしたのは当社が最初で、今では約 3,000 種類のパターンを揃えています」。

博進堂が HP Indigo デジタル印刷機を導入した理由を、 清水社長は『品質の高さ』だと説明する。博進堂では、小ロットジョブへの対応力を高めるため、10 年程前から乾式トナー式デジタル印刷機を利用していた。

さらなる画質に対する写真館のニーズに応えるため、 博進堂は 2010 年 4 月に 1 台目の HP Indigo 5500 デジタ ル印刷機を導入、その半年後 (2010 年 10 月) に 2 台目の Indigo 5500 を追加導入し、小ロットのジョブを Indigo で行うようになった。その結果、「画質に関するご指摘はほとんど無くなりました。 Indigo での生産量は計画通りに増えていることから、Indigo の導入は成功していると考えています」(清水社長)

## 写真画質を活かして既存事業の強化を実現

写真館に HP Indigo デジタル印刷機の写真画質が受け入れられたことで、博進堂は学校アルバムの高付加価値化を進めることができるようになった。例えば、博進堂は写真館と共同で、学校アルバムのうち2ページ分を学生や生徒が授業の一環でパソコンを使って自分で作成する取り組みを進めている。こうした作業を通じて、学生・生徒は学校アルバムを更に思い出深いものにできると、清水社長は説明する。

少子化が進む状況ではあるが、清水社長は「まだ学校アルバムの市場は伸びる」と考える。「博進堂では、修学旅行や甲子園出場記念など、イベントごとのアルバムを提供しています。また、専門学校や大学のゼミ、大学院なども新しい市場だと考えています」。





株式会社博進堂 取締役社長 清水 伸 氏

#### チャレンジ

- ・学校アルバムサービスの拡充
- ・学校アルバム以外の新商品開発・提供
- ・小ロットジョブの牛産性の向上
- ・顧客である写真館向けのサービス品質、

生産性の向上

#### ソリューション

- ・HP Indigo 5500 デジタル印刷機
- ・あるばむステーション(自社開発)
  - ーアルバムスタイル ーアルバムトーク
  - -アルバム WEB

#### 結果

- ・学校アルバムの高付加価値化
- イベントごとのアルバムの制作
- ・専門学校・大学のゼミ・大学院など新たな 市場開拓の開始
- ・『Pi-alBum』『定年退職記念アルバム』など新商品の開発・提供
- ・100 部までの学校アルバム、500 部までの 商業印刷物の生産性向上
- ・写真館による「あるばむステーション」の利用拡大

博進堂は、保育園に対して『成長の記録』としてのアルバムを提供するサービスも行っている。これは、保育園での写真を中心に制作したアルバムに保育士の先生方が発達の記録を記載したもので、家族はアルバムを通じて保育園生活における成長の様子を確認・保存することが可能となる。このサービスは現在多くの保育園に利用されており、博進堂では今後の更なる普及を期待している。

HP Indigo デジタル印刷機の導入により、小ロットジョブの生産性も大幅に向上した。これまで対応できなかった小ロットジョブも、Indigo で生産できるようになったためである。博進堂では現在、100部以下の学校アルバム、また商業印刷分野においては500部以下のジョブについて、Indigo で対応している。

### 事業拡大を支えるソリューション:あるばむステーション

学校アルバムサービスの拡充に当たり、博進堂では HP Indigo デジタル印刷機とアルバム作りを支援するウェブサイト『あるばむステーション』を組み合わせて活用している。あるばむステーションは、学生・生徒の年代に適したデザインやレイアウトを選ぶことができる『アルバムスタイル』、アルバムの制作進行状況などを確認できる『アルバムトーク』、そしてデジタル原稿作成ツールである『アルバムWEB』の3つのサービスから構成される。

博進堂の顧客の間では、ここ数年であるばむステーションの利用が急速に広まっている。「あるばむステーションの仕組みは、6~7年前には運用を始めていました。しかし、インターネットの通信回線速度やパソコンスキルの関係で、お使いいただく写真館は限られていました。その後これらの課題が解決され、また Indigo を導入したタイミングでウェブ受注の仕組みも出来上がったことから、急速にご利用が広まっています。現在では総ページ数の約80%をデジタルデータで入稿いただいています」(清水社長)

あるばむステーションは、写真館のサービス品質や生産性の向上に貢献している。例えば、写真館はアルバムスタイルを活用することで、各校の個性や特徴を活かしたアルバムを提案・作成することが可能となった。また、アルバムトークやアルバム WEB を活用することによって、アルバ

ムの編集や出稿といった作業の効率化が実現された。あるばむステーションの利用が写真館で広まった結果、博進堂においても印刷前工程の生産性が向上された。あるばむステーションは、写真館と博進堂の双方にメリットをもたらす、学校アルバムサービスを支えるソリューションなのである。

## Indigo が促進する新たなアルバム市場の開拓

「新商品が増えたこと」も HP Indigo デジタル印刷機導入の大きな成果だと、清水社長は考える。「当社には研究体質の社風があり、特にストーリー性があって大切に残したくなる『記念日』に関するアルバムの開発を得意としています。少部数でも高品質のアルバムを生産可能な Indigo を導入したことで、学校アルバム以外の新商品が増えました」。

博進堂が新たに開発した商品のひとつに、七五三など記念日の思い出を残す『Pi-alBum』(ぴぃあるばむ)がある。これは、「ご家族が撮られた写真と写真館が撮影された写真を組み合わせて作成するもので、この商品についてもストーリー性が重要になります。今後、誕生日など様々な記念日に対応した Pi-alBum を制作する予定です」(清水社長)

また、定年退職の際に贈呈される『定年退職記念アルバム』などによって、企業向けアルバム市場の開拓も進めている。「このアルバムは、定年退職される方に対して後輩社員が行うインタビューを基に制作されます。退職される方の多くは、最初は「恥ずかしい」と嫌がるのですが、完成したものをご覧になるととても喜んでいただけます。このアルバムは、社員を大事にされる企業でのご利用が広がっています」(清水社長)また、高齢者向け介護施設入居者の100才の誕生日に贈呈する記念アルバムを制作するサービスなどを通じて、高齢化に対応した新たな市場開拓にも取り組んでいる。

博進堂は、写真画質の HP Indigo デジタル印刷機を導入したことにより、学校アルバムの高付加価値化や小ロットジョブの生産性向上、新商品を増やすことなどに成功した。その結果、博進堂は既存事業の強化を実現し、新たな市場の開拓を積極的に進めることが可能となった。Indigo で競争力を高めた博進堂の更なる発展が期待される。

株式会社博進堂 〒 950-0807 新潟市東区木工新町 378-2 TEL: 025-274-7755

URL http://www.hakushindo.jp/

詳細は HP のホームページをご覧ください。 ホームページ:http://www.hp.com/jp/

